

広島県インカレ及び全日本インカレ結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

11/16 に広島大学体育館において、広島県インカレが開催されました。

また、11/26 に、神奈川県川崎市とどろきアリーナにおいて、男子部が全日本インカレに出場しました。

広島大学の結果は、以下のとおりです。

(広島県インカレ・男子)

広島大学 B

2 回戦 vs 広島修道大学

○2-0 (25-22、25-18)

準決勝 vs 福山平成大学 A

●1-2 (16-25、25-23、21-25)

広島大学 A

2 回戦 vs 広島工業大学 A

○2-1 (21-25、25-20、25-20)

準決勝 vs 福山平成大学 B

○2-0 (25-20、25-22)

決勝戦 vs 福山平成大学 A

●0-2 (10-25、35-37)

(広島県インカレ・女子)

1 回戦 vs 広島国際大学 B

○2-1 (25-22、21-25、25-16)

準決勝 vs 広島文化学園大学

●0-2 (11-25、10-25)

(全日本インカレ・男子)

1 回戦 vs 中央学院大学 (関東学連 2 部 6 位)

●0-3 (20-25、14-25、12-25)

(全日本インカレ・男子最終結果)

優 勝 専修大学

準優勝 日本体育大学

第 3 位 早稲田大学

第 4 位 近畿大学

(広島県インカレ写真集ページ (中国学連 HP))

<https://chugoku.hiroshima-u.ac.jp/hiroshima-keninkare-2024-photo.html>

広島県インカレは、男子は 4 年生が中心の B チームと、3 年生以下のメンバーによる A チームで臨み、女子は 4 年生の大前 (広島皆実高校)、尾崎 (鳥取・米子東高校) もスターティングメンバーとして約半年ぶりと 1 年ぶりの試合出場となりました。女子の 1 回戦は、秋季リーグ戦で形となった西岡 (1 年・兵庫・姫路高校)、光本 (1 年・岡山城東高校) の両 1 年生レフトが躍動し、流れが行ったり来たりする中でも非常に安定したパフォーマンスを発揮することができていました。光本は、ひと月前にリベロからレフトにコンバートされた秋季リーグ戦とは異なり、練習を重ねた成果で動きに素軽さが増し、緩急の精度が高くなったと思います。また、西岡は、今大会リベロに回った新宅 (4 年・広島・安古市高校) から尾崎にセッターが代わりましたが、西岡のスパイクは全て西岡の求めているトスに見えると言うか、トスの状態にかかわらず常に得点の可能性が高い形を作り出せています。キャッチから開いてトスを待つときの重心が低く、そこからの判断の速さと鋭いステップは、見ていて感嘆せずにはいられません。ただ、文化戦ではなかなか決めさせてもらえなかったように、今の高さや速さでは 1 部だと戦ってはいけません。これは両レフトだけではなくチーム全体の大きな課題ですので、来春はどちらも今の 2 倍にするつもりで冬の練習に取り組んで欲しいと思います。

男子の全日本インカレは、昨年に続いて関東学連 2 部との対戦となり、攻守で層の厚さを感じましたが、1 セット目から自分たちのバレーボールが出来ていたことは素晴らしかったと思います。つなぎのミスやもったいないプレーもたくさんありましたが、初見の強豪にレシーブで粘り強く応戦し、エースが長いラリーを決めきるところまで持って行けたことは、今年の集大成と言えるものでした。特に、秋季リーグ戦でベストスコアラー賞を受賞した山下 (3 年・広島・安古市高校) は、最初から高いブロッカー陣にマークされる厳しい状況でしたが、全く恐れることなく熱いプレーで得点を重ね、引き出しの多さと懐の深さを改めて感じさせてくれました。多くの選手は、スパイクでもレシーブでも最初は考えてプレーする

ことができますが、相手に対応してくると何も出来なくなってしまうのが広大の男女とも
の現状です。今回の山下の場合は、スタート時点で既に相手に対応しており、見せ場なく終
わっても不思議ではありませんでしたが、普段から壁にぶつかっても乗り越えるまで絶対
に諦めないことを繰り返しているからか、ステージが上がれば上がるほど新しい一面を出
せることを自分自身が分かっており、また自分自身がそれを楽しみにしていることと思
います。ステージが上がっていくと、自分はここでは戦えないと大体の人は諦めてしまうも
のですが、上がり続けることで自分の可能性を広げ続けるという姿勢は、これも男女ともに学
ぶべき姿勢で今のチームには最も大切なことだと思います。特にオフシーズンの練習は自
分の限界を自分で決めがちですが、限界に達してこそ新しい自分になれるチャンスと捉え
て、上へ上へとステップアップできるように頑張りましょう。

これをもって、4年生の高橋、村上、保坂、清水、河村、時永、平田、新宅、大前、尾崎、
長岡は引退となりました。

今年もたくさんのご声援をいただき、誠にありがとうございました。

来年もどうぞよろしくお願いたします。